

国際知財司法シンポジウム(JSIP)2022

～「複数主体による特許権侵害の国際比較」及び

「民事紛争解決手続の多様化とその課題」～

裁判所パートの結果概要

知的財産高等裁判所判事 岡山 忠広

知的財産高等裁判所判事 中島 朋宏

知的財産高等裁判所判事 勝又来未子

1 はじめに

今回で6回目となる国際知財司法シンポジウム(JSIP)2022の開催初日の令和4年10月27日、3年ぶりに海外パネリストの来日を得て裁判所パートのプログラムが有観客で実施され、その映像がYouTubeを通じてライブ配信された。

開催に当たり、林道晴最高裁判所判事より、日本における民事手続のデジタル化の進展状況や新たに開庁した「ビジネス・コート」について紹介するとともに、他国と連携して国際的な動向や課題を適切に把握し、互いの法制度について知識や理解を深めることが重要となっており、相互理解を通じた各国間の司法の連携の緊密化を願う旨の挨拶がされた。



写真1 林道晴最高裁判所判事による開会挨拶

裁判所パートでは、日本の登壇者による模擬事例の説明及び模擬裁判の後、アメリカ、イギリス及びドイツの裁判官¹も海外パネリストとして加わり、①「複数主体による特許権侵害の国際比較」及び②「民事紛争解決手続の多様化とその課題」をテーマにパネルディスカッションを行った²。

1 米国第3巡回区控訴裁判所のKent A. Jordan裁判官、英国イングランド・ウェールズ控訴院のColin Birss裁判官及びドイツ連邦通常裁判所のKlaus Bacher裁判官である。

以下、その結果の概要を報告する³。なお、本稿中、意見にわたる部分は筆者らの個人的見解である。

2 複数主体による特許権侵害の国際比較

(1) 模擬事例の概要及び各国の判断の骨子等

ア 模擬事例は、東京地判平19・12・14（平成16年（ワ）第25576号。眼鏡レンズの供給システム事件）をベースにした特許権侵害訴訟の事案であり、その要点は次のとおりである。

(ア) 原告（Pony社）は、発明の名称を「メガネレンズ加工システム」とする発明（本件発明）についての特許権（本件特許権）を有している。本件特許権に係る特許（本件特許）の明細書（本件明細書）によると、本件発明の特徴は、概要、次のとおりである。

① メガネレンズは、その周縁の側面に形成されている凸状の突起（ヤゲン）を、メガネフレームのリム（レンズを囲んでいるレンズの縁の部分）の内側面に形成されている凹状の溝に嵌合することでリムに固定されるため、フレームが定まらないとレンズの加工はできない。メガネ店でレンズを加工しない場合、レンズ加工工場では、フレーム自体は手元にないため加工済レンズがリムに収まるかどうかを確認できず、メガネ店に納品された加工済レンズが大き過ぎたり、逆にリムとの間に隙間が生じたりする不具合が生じる可能性があるなどといった問題があった。そこで、本件発明は、フレームが手元にならない場所でレンズを加工する場合であっても、高い確実性と効率性で、レンズをフレームのリムに適合させることができるメガネレンズ加工システムを提供することを目的とする（段落【0002】～【0007】）。

② 本件発明の構成とすることによって、フレームのリム周長とレンズのヤゲン頂点に沿ったレンズ周長との差を判定条件に用いてレンズがフレームに適合するか否かを判定することで、フレームが手元にならない場所でレンズを加工する場合であっても、高い確実性と効率性で、レンズをフレームのリムに適合させることができる（段落【0008】、【0009】）。

(イ) 本件発明の構成要件は、次のように分説できる。

- A メガネフレームのリムの三次元形状を測定するためのフレーム測定ユニットと、ネットワークを介して前記フレーム測定ユニットと接続され、メガネレンズのヤゲン加工を行うためのレンズ加工ユニットと、を備えるメガネレンズ加工システムであって、
- B 前記フレーム測定ユニットは、

2 模擬事例の説明は知財高裁の小川卓逸判事が行い、模擬裁判には、城山康文弁護士及び小野寺良文弁護士並びに知財高裁の東海林保部総括判事、浅井憲判事、中村恭判事、光本美奈子調査官、秋田将行調査官及び天野貴子調査官のほか筆者らのうち勝又来未子判事が登壇した。パネルディスカッションには、パネリスト及びモデレーターとして、上記弁護士ら及び東海林部総括判事のほか、知財高裁の大鷹一郎所長及び筆者らが登壇した。なお、パネルディスカッションの実施に向けては、上記の方々並びに知財高裁の都野道紀判事、遠山敦士判事及び山口和弘調査官（当時）から、数多くの基礎資料や助言をいただいた。

3 事例説明、模擬裁判及びパネルディスカッションの動画等は、最高裁行政局YouTube〈https://www.youtube.com/channel/UC8e_LoV04a5G254ry87EaoQ〉において視聴可能である（いずれも日本語版、英語版及び会場音声版がある。）。

また、模擬裁判及びパネルディスカッションに関する資料（模擬事例、スライド、判決要旨、プレゼンテーション資料等）は知財高裁ウェブサイトの国際知財司法シンポジウム2022（JSIP2022）のページ〈https://www.ip.courts.go.jp/jsip/vcmsFolder_1633/vcms_1633.html〉において公開されている。